

古墳に眠る肝属の王 —塚崎古墳群の時代—

肝付町歴史民俗資料館 特別展 資料（2007年7月12日～9月10日）

塚崎古墳群を知っていますか？

みなさんは塚崎古墳群を知っていますか。

塚崎古墳群は鹿児島県大隅地域、肝属郡肝付町野崎にあります。ここには、前方後円墳や円墳という「古墳」とよんでいる昔の人のお墓がたくさん作られています。現状で40数基が確認できますが、今は痕跡も残っていないものがありますので、本来はもっとたくさんの古墳が作られていたと考えられます。

このお墓、古墳が作られた時代は、「古墳時代」と呼ばれています。それはだいたい西暦の200年代半ばから600年ころまでの時代です。塚崎古墳群が造られたのはとくに西暦300年代から400年代を中心とするようです。

この時代を代表する古墳は前方後円墳というかたちのものですが、塚崎古墳群は日本最南端の前方後円墳がある古墳群です。すこし、この時代がどんな時代かご紹介しましょう。

古墳とは？

古墳時代には、私たちが今、前方後円墳と呼んでいる丸い墳丘と四角い墳丘を合体させた奇妙なたちをした巨大な墓が日本列島の広い範囲で盛んに造られていました。そのもっとも大きなものは大阪府堺市の大山古墳または仁徳天皇陵古墳とも呼ばれるものです。

この古墳づくりには多くの人の労働力が必要です。ですから、これらは各地域でも、富や権力を握った有力者が造らせた墓だと考えられます。なかには、王と呼ぶべき、その地域で最大の権力者も前方後円墳に葬られたと考えられます。この時代には鹿児島県でも大型の前方後円墳が造られました。

それは大隅の志布志湾岸・肝属平野周辺の地域です。そしてこの地域が前方後円墳の造られた最南端の地域です。鹿児島県ではこの地域以外に前方後円墳は造られていません。また、大隅地域には大型の古墳とともに、地下式横穴墓という墓がおなじく5世紀頃（西暦400年代）を中心に盛んに造られます。地下式横穴墓とは地面から堅穴を掘り、さらに堅穴の下方から横方向に埋葬空間の横穴（玄室）を掘り抜くこの地域の独自の埋葬形態です。

古墳時代は前方後円墳を中心に古墳を造ることで有力者たちの身分や勢力などの社会的関係を表した時代だと考えられています。また前方後円墳を中心とする古墳は鹿児島から岩手まで分布し、全国的な社会的結びつき・秩序が形成される過程を表すものだと考えられています。

そのため、古墳は日本列島の広い地域に社会的な共通圏ができあがる古代の国家が出現する過程を考える上で重要な資料だと考えられています。とくに、大隅の古墳はその分布の南限域であることから、各地域の側では古墳を造ることじのような意義があったのかを考える重要なフィールドだといえます。



曾於郡大隅町 塚崎古墳

肝属平野周辺の古墳群



古墳は単独ではなく、いくつかでまとまって造られることが一般的です。こういう場所を古墳群といいます。肝属平野周辺には古墳や古墳群がいくつもあります。

唐仁古墳群 肝属地域をもっとも代表的なのは肝属郡東申良町の唐仁古墳群です。この古墳群には、この地域最大の墳丘全長154mに復元できる大型前方後円墳の唐仁大塚古墳があります。この大きさは九州で第3位の大きさです。そのほかに前方後円墳2基、円墳が130基以上も造られているこの地域最大の古墳群です。

岡崎古墳群 鹿屋市申良町岡崎には前方後円墳2基と円墳や地下式横穴墓からなる岡崎古墳群があります。2002年～2004年度には鹿児島大学総合研究博物館で発掘調査を実施しました。朝鮮半島製の鉄製品や交易品である稀少な初期須恵器などが出土していて、ここに埋葬されている人が広い地域との交流を行っていたことがわかっています。こゝも5世紀ころの古墳群です。唐仁古墳群に次ぐ階層の有力者の古墳群でしょう。

横瀬古墳 曾於郡大崎町には横瀬古墳があります。墳丘全長140mを測り、周囲に溝をめぐらせる大型古墳です。九州で第5位の大きさを誇ります。この古墳は墳丘表面を埴輪で飾っていました。また朝鮮半島系と考えられる土器も出土していて、埋葬された人物が広域交流によって手に入れたものと考えられます。明治時代に盗掘され、竪穴式石室から、よろいや剣などが出土したと言われています。この古墳も5世紀前半に位置づけられます。

神領古墳群 同じ大崎町には神領古墳群があります。このなかの神領10号墳では2006年の鹿児島大学総合研究博物館の発掘調査で武人埴輪が出土して注目されました。また他の古墳や地下式横穴墓から鏡や鉄刀などの副葬品が出土しています。

下堀地下式横穴墓群 大崎町では下堀地下式横穴墓群が発掘調査で確認されています。ここでは小規模な地下式横穴墓が7基確認され、鉄剣などのわずかな副葬品が確認されました。なかには異形鉄器という珍しい鉄製品もありました。地下式横穴墓群の横に祭り場があり、たくさんの土器が出土しました。ここでも初期須恵器が出土し、この地域では横瀬古墳を中心に5世紀前半にきわめて活発な地域間交流が行われたことがうかがえます。

飯盛山古墳 志布志市には飯盛山古墳があります。海に突き出したタグリ岬の上に海交通路を見通す場所に築かれています。この古墳にも埴輪がありますが、このものは横瀬や神領10号墳よりも古い、壺や円筒形をした埴輪です。4世紀後半のものだと考えられます。

まだ他にもたくさんありますがここですべて取り上げられませんので、みなさんも調べてみてください。

塚崎古墳群の発掘調査をしています

塚崎古墳群にたくさんの古墳があることは、大正時代ころには知られていました。この古墳群には前方後円墳など5基も存在し、それ以外に円墳など39基も含み、総計40基以上の古墳が存在します。また、地下式横穴墓もこれまでに10基ほど確認されてきました。まだ、埋まっていたり、発見されていなかったり、長い年月のうちに壊れてしまったものもありますから、もっと多くの古墳や地下式横穴墓からなる古墳群であることは確実です。

この古墳群はその重要性から昭和20(1945)年に、国から「史跡」に指定されています。

しかしながら、当時は古墳範囲の確定が十分ではなく、各古墳本来の大きさなどを確認した上で指定されたわけではなかったため、その後壊れてしまった古墳などもあります。

これまでは鹿児島大学考古学研究室と琉球大学考古学研究室によ

って現況の測量調査などが行われてきましたが、肝付町教育委員会では平成16(2004)年度から、あらためて各古墳の範囲を確定し、保存を図るための発掘調査を平成19(2007)年度までの予定で進めています。



さいきん、塚崎古墳群で発見されたもの



塚崎25号墳出土 土師器



塚崎43号墳出土 土師器

塚崎25号墳では、小型丸底壺と器台という土器が出土しました。また43号墳でも小型器台が出土しました。これらは古墳時代前期、4世紀代のものです。肝属平野周辺では同時期の資料は今までに知られておらず、古墳時代の早い時期から最南端の地域にも古墳が出現していたことを明らかにしました。

18号墳では壺のかたちをした埴輪が2個出土しています。二重口縁壺と単口縁壺と呼ばれるもので、口のかたちが違うものを2つでセットにすることは九州全体で古墳時代前期後半から中期前半、4世紀後半を中心とする時代によく見られるものです。またこの埴輪は上半を赤く塗っていて、底には孔をあけています。埴輪は墓に飾るもので、実用の土器ではないことを示しています。



塚崎18号墳出土埴輪



塚崎31号墳

31号墳では、初期須恵器の甕が2つ並び、さらにその下から土師器の高杯が出土しました。これらは古墳時代中期中葉、5世紀前半のもので、須恵器の甕は酒や水などの貯蔵具ですが、これは朝鮮半島から登り窯で土器を焼く技術が伝わってきた最初の時期のきわめて稀少なものです。これが1つの古墳から2個も一緒に出土したのは全国的にみてもほとんど類例がありません。これらは広域交流によって近畿地方などから入手したもので、5世紀の肝属地域の人の活発な活動がうかがえます。ほか、23号墳でも同時期の土器が出土しています。

また、最近の発掘調査では古墳を囲む溝が確認されているほか、新たに地下式横穴墓もたくさん確認されました。なかには石棺墓も新たに見つかっています。

この古墳群の主役である前方後円墳は発掘調査していませんので、まだわからないこともたくさんありますが、これらの出土資料から塚崎古墳群に葬られた人々は古墳時代前期～中期、すなわち4～5世紀に活躍していたことがわかります。



発掘調査風景



塚崎31号墳出土 須恵器甕



塚崎31号墳出土 土師器高杯



塚崎古墳群20号墳付近・石棺墓

肝付町の文化財、これから



塚崎1号墳上の大楠
(国指定天然記念物)

肝付町には塚崎古墳群以外にも、高山城や二階堂家住宅、塚崎の大楠などの国から指定された文化財があり、そのほかにもたくさんの文化財があります。それらは、一つひとつが歴史の積み重ねのなかにあり、これまでの歴史の道標です。歴史とは身近なところにあるということを感じてみませんか。そして、それぞれ調べてみると新しい発見に出会えるかも知れません。肝付町の歴史、もっと好きになってみませんか。

古墳に眠る肝属の王—塚崎古墳群の時代—

肝付町立歴史民俗資料館 893-1201 鹿児島県肝属郡肝付町野崎1936番地 0994(65)0170
2007年7月12日

編集・文責・写真撮影：鹿児島大学総合研究博物館 橋本達也
890-0065 鹿児島市都元1-21-30 099(285)8141 (博物館代表)